

小中連携による外国語活動（武豊地区）

—小中間の交流・授業参観と改善を通して—

1 学校紹介（衣浦小学校・富貴小学校・富貴中学校）

(1) 各学校の沿革

年月	衣浦小学校	富貴小学校	富貴中学校
1947. 4		富貴村立富貴小学校と改称	富貴村立富貴中学校開校
54. 4		武豊町立富貴小学校と改称	武豊町立富貴中学校に改称
70. 4	衣浦小学校開校		
97			中学校にALT配置
2000	オーストラリア・ケアンズ セントザビア 校との交流開始		オーストラリア・ケアンズ セントザビア 校との交流開始
03	英語活動開始		学力向上フロンティア事業 研究委嘱（2年間）

(2) 現在のクラス数・児童生徒の数

学校	児童生徒数	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特支	合計	その他
衣浦小	604人	3	3	3	3	3	3	2	20	約半数が富中へ
		97	101	89	110	96	111		604	
富貴小	528人	3	3	3	3	3	3	2	20	全員が富中へ
		85	100	84	85	81	87	6	528	
富貴中	378人	4	4	3				2	13	
		127	117	115				10	379	

2 児童生徒の現状

(1) 衣浦小学校

元気で活発な児童が多い。昨年度まで、月曜日の朝の集いでALTによる英語の「ワンポイント・レッスン」を行っており、大きな声で発音する様子が見られた。

5年生男子は、自己中心的な児童や、話を聞くことやルールを守って行動することが不十分な児童も見られるが元気ではある。5年生女子は、仲のよい者同士が集まりグループ化も進んでいるが、概して、周りに気を使って慎重に行動している児童が多く見られる。男女を問わず、英語活動では、自信がない様子で、ゲームに消極的だったり、大きな声で発音できなかつたりする児童もいるが、英語に対する興味・関心は高い。

6年生男子は、休み時間に外で遊ぶなど活発な児童が多い。問い掛けへの反応もよく、パワーがある。6年生女子は、男子に比べて落ち着いた生活態度であるが、周りを見ながら慎重に行動する児童が多いため、英語活動ではややおとなしい印象がある。

(2) 富貴小学校

児童は、のんびりとした環境で生活していることもあり、やや積極性が足りない面もあるが、落ち着いている。学習に対しては、深く追究したり、自分で考えて問題を解決していこうとする面は弱い

が、与えられた課題には真剣に取り組む。高学年においては、何事にも意欲的に取り組む姿勢が強い。

5年生は、思考を要することや難しいことになると、なかなか粘り強く行うことができずにいるが、新しいことに対する興味は旺盛である。5年生から始まった英語活動については、興味をもって取り組んでいる。

6年生は、ほとんどの児童が集中して授業に取り組んでいる。特に、総合的な学習の時間等、自分で課題を見つけて取り組む学習には率先して励んでいる。ただ、教員からある程度の指示がないと、取組の方向が分からず、当初の意欲がなくなってしまうことが多い。児童はALTと楽しく英語活動に取り組み、無理なく自然な形で初歩の英会話に親しむことができている。

(3) 富貴中

数年前まで生徒指導面での問題を抱えていた生徒もいたが、近年は校内の雰囲気も落ち着き、授業規律も確立してきており、生徒は素直で明るい学校生活を送っている。

特に1年生は、男子は元気があり、女子はおとなしく控え目である。授業中もその様子が顕著で、英語の発音練習やコミュニケーション活動では授業の雰囲気づくりが要となっている。授業規律は確立しているものの、学習習慣は身に付いておらず、集中力が持続できない生徒もいて、学力差の広がりがかなり出始めている状況である。

3 外国語活動への取組

平成23年度から必修化される小学校の英語活動の教育目標は「コミュニケーション能力の素地の育成」である。この目標を達成するために、武豊町では、クラスの実態をよく知る学級担任が、T1(*1)としてクラスを統括し、T2(*2)であるALTが言語活動の中心となって授業を展開する等、学級担任とALTの役割を明確にして英語指導に当たることが大切であると考えている。それは、学級担任が前時までの復習やまとめをすることで、学習に対しての適切なレディネスや学習内容の振り返りができ、また、様々なアクティビティを知っているALTを中心に言語活動をすることで意欲化を図り、学習内容の習熟を図ることができるからである。そこで、本研究では、学級担任が中心となって英語授業を構成し、ALTの役割を明確に示すことで、小学校段階での英語教育のねらいに迫ろうと考えている>(*1 ティーム・ティーチングで主になる指導者 *2 ティーム・ティーチングで従になる指導者)

年間計画については、小学校間や学級間の差をなくしたいと考え、町独自のカリキュラムを作成している。(巻末資料)

<衣浦小学校の実践>

(1) 授業展開例

ア 目標

- ・気持ちを表す表現を進んで覚え、親しもうとしている。
- ・覚えた表現を使ってゲームに進んで参加しようとしている。
- ・“How are you ? ”の問いに対して、自分の気持ちを“ I'm ~.”で答えることができる。

イ 学習過程

段階	学 習 活 動	時間	指 導 上 の 留 意 事 項		
			HRT (T1)	ALT (T2)	
ウォームアップ・復習	<p>1 あいさつと復習をする。</p> <p>(1) 元気よくあいさつをする。 “Good morning.” “How are you?”</p> <p>(2) 5人の人とあいさつをする。</p> <p>(3) 既習表現の復習をする。 ・数字・曜日・フルーツ ・“Do you like ~?”</p>	7	<ul style="list-style-type: none"> 児童とあいさつする。 “Good morning.” 教室を回って5人にあいさつをするよう説明する。 教室を回って児童とあいさつする。 言えない児童のそばに行き一緒に発音する。 フラッシュカードを使って数字や色の名前を復唱させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童とあいさつする。 “Good morning.” <p>工夫1</p> <ul style="list-style-type: none"> 教室を回って児童とあいさつをする。 HRTに続いて、児童と一緒に発音する。 	担任が中心となって実施する内容
言語材料への導入	<p>2 本時の学習課題をつかむ。</p> <p>気持ちを表す表現を知ろう</p> <p>(1) 気持ちを表す表現を知る。 ・hot ・angry ・sad ・cold ・hungry ・happy</p> <p>(2) “How are you?”“I’m ~ .”の言い方を練習する。</p>	17	<p>評 進んで声を出して発音する。(観察)</p> <ul style="list-style-type: none"> ALTに続いて児童と一緒に発音する。 ALTと共に会話のモデルを示す。 	<ul style="list-style-type: none"> 気持ちを表す表現を繰り返し練習させる。 HRTと共に会話のモデルを示す。 	ALTが中心となって実施する内容
言語活動	<p>3 気持ちを表す表現を使ってゲームをする。</p> <p>(1) Row race</p> <ul style="list-style-type: none"> 学習した気持ちを表す表現を、I’m ~.で言う。 後ろから前へ順番に言っていき、最初に言い終えた列を勝ちとする。 <p>(2) “How are you?”game</p> <ul style="list-style-type: none"> プリントしてある「気持ち」を一つ選び、○を付ける。 “How are you?”と尋ね、自分が色を塗った「気持ち」を答える人が見付かるまで、尋ねる。 <p>工夫2</p> <p>工夫3</p>	38	<ul style="list-style-type: none"> ゲームの説明をする。 態度、大きな声の観点で評価・指導する。 <p>評 進んでゲームに参加している。(観察)</p> <ul style="list-style-type: none"> ゲームの進行を補助する。 態度、大きな声、視線の観点で評価・指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> 発音の苦手な児童に指導する。 ゲームの説明をする。 	ALTが中心となって実施する内容
まとめ	<p>4 本時のまとめをする。</p> <p>(1) pointing game をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 教室の中に円を作る。 中心にいる児童が一人の児童を指し“How are you?”と言う。 指された児童は座り、両隣の児童が“I’m ~”と言う。 <p>(2) 早く言えた児童が勝ち。</p> <p>(3) 授業の振り返りを記入する。</p> <p>(3) 終わりのあいさつをする。 “Good bye.” “See you.”</p> <p>工夫4</p> <p>工夫5</p>	38	<ul style="list-style-type: none"> 児童を教室の中で円を作らせゲームの隊形にする。 ゲームの進行を補助する。 <p>評 英語で気持ちを表現することができる。(観察)</p> <ul style="list-style-type: none"> 終わりのあいさつをする。 	<ul style="list-style-type: none"> pointing game の説明をする。 ゲームの審判をする。 チャンピオンを全員の前で賞賛する。 終わりのあいさつをする。 	担任が中心となって実施する内容

* HRTは学級担任をあらわす

ウ 本時の評価規準

- ・進んで語句や表現の練習をしようとする。(観察)
- ・気持ちを表す表現を覚え、進んでゲームに参加している。(観察)
- ・気持ちを尋ねる表現と答える表現を理解し、正しく言える。(観察)

(2) 指導の実際と児童の反応

ア 学級担任が中心となって授業を構成・展開すること(工夫1)

新学習指導要領に示された「コミュニケーション能力の素地を育成」するということを、「積極的に会話しようとする」ととらえ、英語の授業において、大きな声で発音したり、相手の目を見ながら話したり、会話の要素が入ったゲームなどに積極的に取り組んだりすることであると考えた。そのために、児童に「自分も英語で会話ができそうだ」という自信や、「自分も英語で話したい」という思いをもたせることが必要である。そこで、児童をよく知っている学級担任こそが授業を構成・展開することによって、学習内容を習熟させ、自信をもたせることができると考えた。

イ 習熟を図るためのゲーム①(工夫2)

自分の気持ちを“I’m ~.”と表現することをALTと共に説明した後、“I’m ~.”の表現の習熟を図るためにRow raceゲームを取り入れた。このゲームは、列でチームになり、後ろの児童から前の児童へ順番に“I’m ~.”の表現を言っていき、全員が一番早く言えたチームが勝ちというものである。ゲームを取り入れることにより、児童は「ゲームに勝ちたい」という思いから、黒板に掲示していつでも参照できるようにしてあるフラッシュ・カードを見ながら、学習したばかりの気持ちを表す表現を意欲的に覚えた。ゲームを繰り返し行うことで、自分の気持ちを表現する“I’m hot.”“I’m angry.”などの表現を習熟することができた。

ウ 習熟を図るためのゲーム②(工夫3)

本時の学習内容をさらに習熟させるためには、“How are you?”“I’m hot.”と会話で答える練習が必要である。そこで、次の段階として、“How are you?”gameを取り入れた(資料1, 2)。このゲームでも、児童はクラスで「チャンピオンになりたい」という思いから、元気よく“How are you?”と尋ね、“I’m ~.”と答えるなど、積極的に会話に取り組んでいた。児童は楽しみながら繰り返し練習することにより、“How are you?”“I’m ~.”という表現を習熟することができた。

資料1 “How are you?” game の内容

- ①ワークシート上の気持ちを、1つ選び○を付ける。
- ②ペアを作り、相手に“How are you?”と尋ね、相手が“I’m ~ ”と答える。
- ③相手が答えた“I’m ~.”が自分の○を付けたものと一緒だったらYes、違ったらNoと答える。
- ④相手がYesと言うまで続ける。
- ⑤何回目にYesが出たかを記録し、スコアを書く。
- ⑥5回のゲームでスコアが少なかった人を勝ちとする。

資料2 “How are you?” game ワークシート

How are you? I'm....						
1						
2						
3						
4						
5						
Score:						

エ まとめของเกม（工夫4）

本時のまとめとして、児童が熱中して取り組んでいる“pointing game”（資料3）を本時のまとめ用にアレンジした。児童は、本時の内容を思い出し、どの児童も“How are you?”と問い掛けられたことに対して、“I'm ~.”と返すことを復習でき、学習の定着を図ることができた。

資料3 pointing game の内容

“pointing game” How are you? version

- ①教室の中に全員で円をつくって座る。
- ②中心の児童が一人の児童を指し“How are you?”と言う。
- ③指された児童は座り、両隣の児童が“I'm ~.”と言う。
- ④早く言えた児童が勝ち、中心の児童と代わる。
- ⑤負けた児童は座る。

資料4 自己評価カード

Let's speak English!

学年 月 日

※横線をふりかき、アンケートに丸をつけよう！

4 よくできた 3 まあまあできた 2 あまりできなかった 1 できなかった

Day	Topic	Big Voice (相手に聞こえる大きな声を出したか)	Eye Contact (相手の目を見て会話をしたか)	Activeness (活動に積極的であったか)
/	Feelings(2)	4・3・2・1	4・3・2・1	4・3・2・1
/	Review activities	4・3・2・1	4・3・2・1	4・3・2・1
/	Mothers(1)	4・3・2・1	4・3・2・1	4・3・2・1
/	Mothers(2)	4・3・2・1	4・3・2・1	4・3・2・1

※横線をふりかき、アンケートに丸をつけよう！

【この資料は巻末に添付してあります】

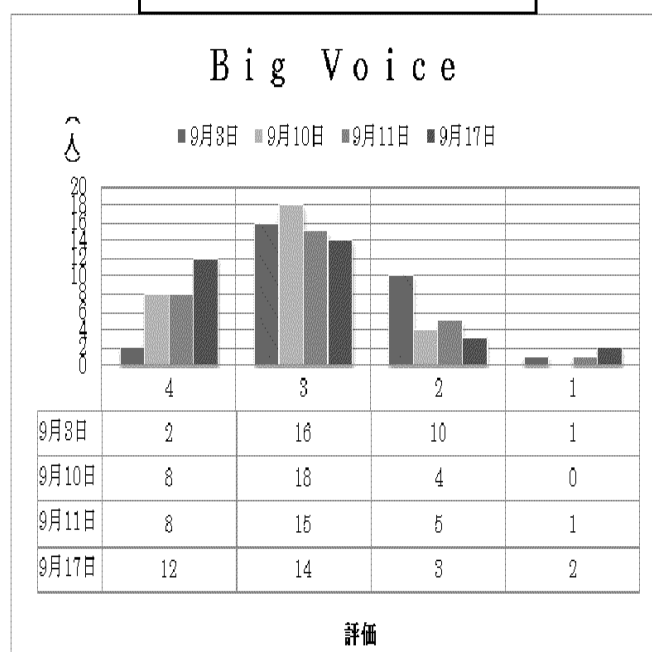
オ 学習活動の振り返り（工夫5）

児童が自分自身で英語活動を振り返ることで、次時以降への意欲を高めるために、自己評価カード（資料4）を取り入れた。“Big Voice”（相手に聞こえる大きな声を出したか），“Eye Contact”（相手の目を見て会話をしたか），“Activeness”（活動に積極的であったか）の3つの観点で振り返りをする中で、「相手の目を見てあまり会話ができなかったことが分かった」「活動に積極的になれた」など、活動を客観的に自分自身で振り返ることができている。

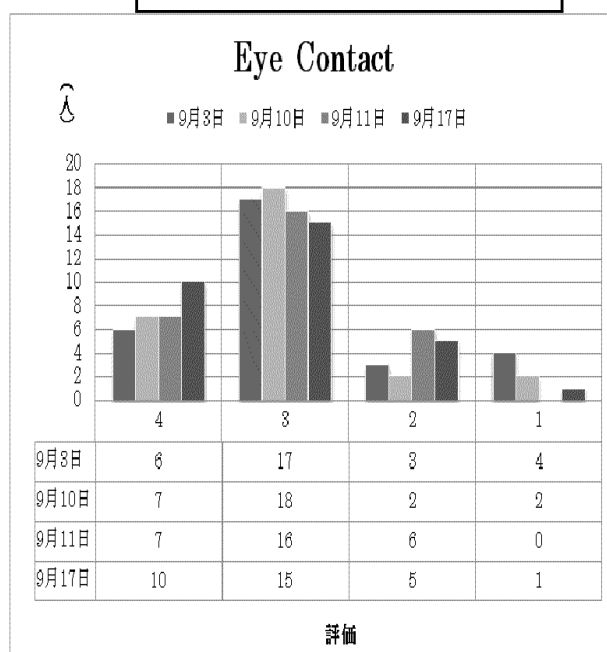
カ 自己評価の全体的傾向

“Activeness”では、自己評価が3（まあまあできた）の児童が増加し、2（あまりできなかった）の児童が減少した。“Eye Contact”では、4（よくできた）の児童が増加し、“Big Voice”では、4の児童が増加し、2の児童が減少した（資料5, 6, 7）。自己評価の結果から、自分自身の活動を振り返り、次時に向けて授業を受ける態度が改善されつつあることが分かる。

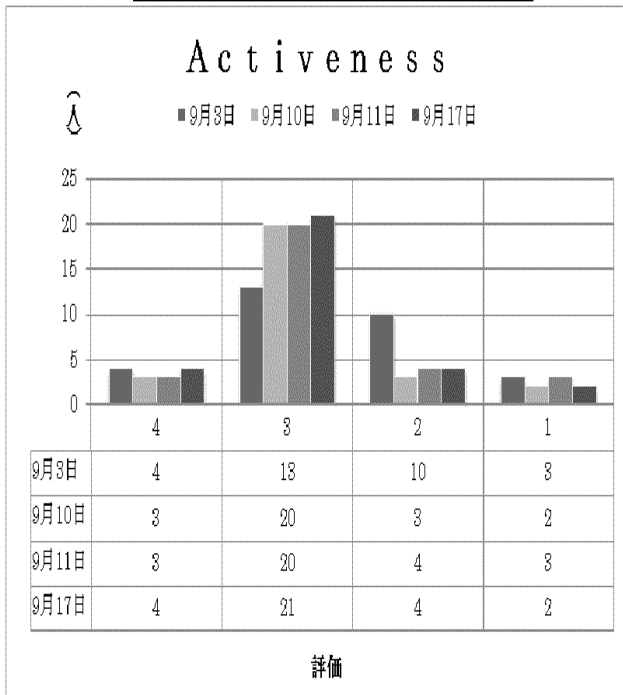
資料5 Big Voice の集計



資料6 Eye Contact の集計



資料7 Activenessの集計



キ 抽出児の変容

抽出児であるA児は、英語活動内容やゲームの理解度が上位の児童である。しかし、英語の活動を楽しいとは感じているものの、大きな声で発音できていなかったり、相手の目を見て会話できなかったりするなど積極的に活動できない児童である。

1回目の自己評価では、2（あまりできなかった）、1（できなかった）ばかりの評価だったが、4回目には3（まあまあできた）と評価が上がってきた。これは、自己評価カードをポートフォリオ的に活用して、自分自身を客観的に見つめ、次時に課題をもって取り組むことができたためだと考えられる。（資料8）

(3) 成果と課題

ア 成果

- ・児童をよく知る学級担任がALTと打合せをしながら授業を構成・展開したことにより、児童に興味のあるゲームをアレンジして取り入れたり、ゲームをもう一度行うなど練習の回数を増やしたりすることで、本時の学習内容を習熟することができた。
- ・自己評価カードを活用したポートフォリオ型の評価を継続して取り入れることにより、児童が授業での活動を振り返り、次時以降の改善点を自分で探り、授業に臨む態度など改善することができた。

イ 課題

- ・中学校で文法・単語などの暗記や筆記に対して抵抗感をもたないために、少しずつ「書くこと」と結び付いた活動を考えることが必要である。
- ・ALTと綿密な計画を立て、頻繁に連絡を取るなど、学級間や学校間での学習内容の違いだけでなく、児童の到達状況の違いをなくす必要がある。

資料8 抽出児A児の自己評価カード

Let's speak English!

★授業をふりかえって、アンケートに丸をつけよう!

4 よくできた 3 まあまあできた 2 あまりできなかった 1 できなかった

DW	Topic	Big Voice (相手に聞こえる大きさ な声)	Eye Contact (相手の目を見て会話)	Activeness (積極的に参加)
9/3	Weather School Lunch	4・3・(2)・1	4・3・(2)・1	4・3・(2)・1
9/10	Vegetables	4・3・(2)・1	4・3・2・(1)	4・3・(2)・1
9/11	Feelings (1)	4・3・(2)・1	4・3・(2)・1	4・3・(2)・1
9/17	School Lunch Feelings (2)	4・(3)・2・1	4・(3)・2・1	4・(3)・2・1

感想 (分かったことや、できるようになったことを書こう)

ゲームで遊ぶがから英語を分かりやすく学んで
とても楽しかった

<富貴小学校の実践>

(1) 授業展開例

ア 目標

- ・英語で質問をしたり，答えたりすることに興味をもち，英語の表現に親しもうとする。
- ・教科の名前と言い方を覚え，進んでゲームに参加することができる。

イ 学習過程

段階	学 習 活 動	時間	指 導 上 の 留 意 事 項	
			HRT (T1)	ALT (T2)
あ い さ つ	1 始めのあいさつをする。 (1) T1, T2とあいさつをする。 T1: Good morning. C: Good morning, Mr. Ujiie and Carlos. T1: How are you? C: I'm fine, thank you. And you? T1: I'm good, too. (2) 5人の人とあいさつをする。 T1: Let's communicate with 5 friends. You say, "How are you?" Let's start! C1: How are you? C2: I'm fine, thank you. And you? T1: OK. Sit down, please.	5	・児童とあいさつをする。	・児童とあいさつをする。
	前時の復習	2 既習の単語を復習する。 ・教科の名前 English, Japanese, math, science, art, P.E., social studies, music	8	・T2の後に続いて，児童と一緒に発音する。
言語材料への導入	3 本時の学習課題をつかむ。 「好きな教科は何ですか」と尋ねたり答えたりしよう (1) 2つの文型を知る。 “What's your favorite subject?” “I like math.” (2) 文型を使って練習をする。 ・尋ね方や答え方をくり返し練習をする。 ・T1, T2の質問に答えたり，尋ねたりする。	20	・ジェスチャーを交えながら会話のモデルを示し，文型の理解を図る。 ・理解するのが難しい児童のそばに行き，一緒に発音する。	・ジェスチャーを交えながら会話のモデルを示し，文型の理解を図る。 ・英語で発音の模範を示しながら，文型を繰り返し練習させる。
	言語活動	4 学習した文型を生かして，ゲームをする。 (1) クリスクロスゲームをする。 ・教員からの質問に手をあげて答える。 “What's this?” “What's Rika in English?” “What's Music in Japanese?” (2) メモリーゲームをする。 ・教員の見本を見て，ゲームを理解する。 ・席の前後でペアを作る。 ・Aのワークシートをもらった児童は，書かれている番号と，それに対応した教科を記憶する。 ・ペアでゲームをする。 A: Number 4. What's your favorite subject? B: I like music.	40	・列指名をし，答えられた児童から座らせていく。 ・ゲームの見本を行い，理解を図る。 ・ゲームをしやすいように，机を向い合わせる。 ・単語を記憶する時間を1分間与える。 ・ゲームを理解できていない児童のそばに行き，支援をする。

ま と め	<p>・記憶する人と質問をする人を交代する。</p> <p>5 本時の学習を振り返る。 (1) 本時で使った単語をワークシートに書く。 (2) 授業の振り返りを記入する。 (3) 終わりのあいさつをする。 T2: Good bye, everyone. C : Good bye, Carlos. T2: See you next time. C : See you next time.</p>	45	<p>評 “What's your favorite subject?” “I like math.”の文型を使って話しながら、ゲームを楽しむことができる。(観察)</p> <p>・書けない児童のそばに行き、支援をする。 ・終わりのあいさつを児童と一緒にする。</p> <p>・書けない児童のそばに行き、支援をする。 ・終わりのあいさつをする。</p>
-------------	---	----	--

工夫 4

* HRTは学級担任をあらわす
 (2) 指導の実際と児童の反応

ア 学級担任がT1として授業を構成・展開すること(工夫1)

普段の学級の様子を知っている学級担任がウォームアップのあいさつと前時の復習を行うことで、児童はリラックスした様子で授業に入ることができた。その後、児童は“5 friends communication”を行った。毎時間の導入でこのコミュニケーションを行うことで、児童もあいさつの仕方を覚え、スムーズに授業に入ることができている。

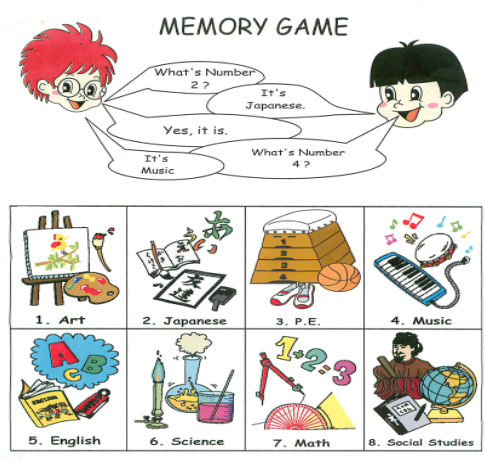
イ ジェスチャーを交えた指導について(工夫2)

本時の目標である“What's your favorite subject?” “I like math.”の文を理解させるときに、学級担任とALTによるデモンストレーションを児童に見せた。その際、お互いがジェスチャーをしながらデモンストレーションを行うことで、視覚的に文の内容を理解できるよう支援した。児童は初め、何を言っているのか理解できなかったが、2、3度デモンストレーションを繰り返すことで、多くの児童が学級担任とALTの話している文と内容を理解することができた。

ウ 習熟を図るためのゲームについて(工夫3)

本時は、目標の表現の習熟を図るゲームとして、“Memory game”を行った。(資料9)まず、ペアを組み、一方が番号とそれに対応した教科名を英語で覚え、次に、もう一方が番号と“What's your favorite subject?”を言う。そして、覚えたことを生かして相手の質問に“I like ~.”と答えるゲームである。ゲーム中、児童は何度も本時の目標となる文を繰り返し発問し、答えていた。何度もゲームを行いながら楽しく習熟を図ることができた。

資料9 Memory game用シート



エ 児童の振り返りについて(工夫4)

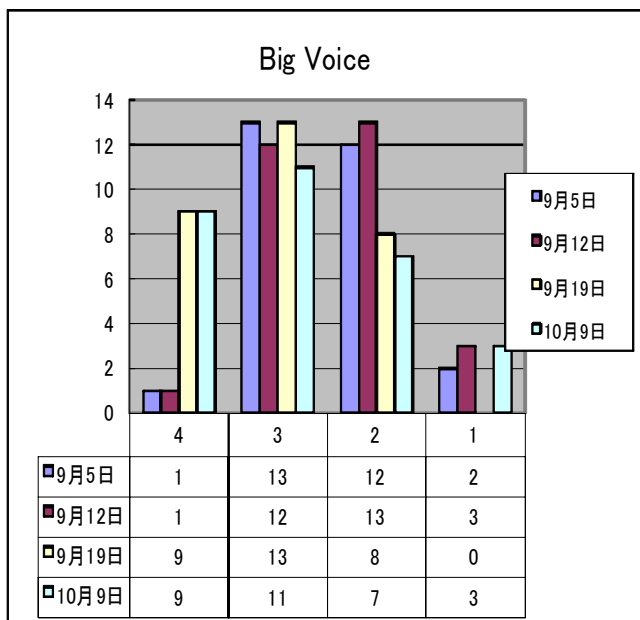
授業の最後に、学習活動を振り返る評価カードを取り入れている。児童は毎時間“Big Voice” “Eye Contact” “Activeness”の3観点を、4段階で振り返り、継続的に自分の成長を感じ取れるようにしている。児童からは、「ちょっとだけど、英語が話せるようになった」「1学期と比べて英語がしゃべれるようになった」など、継続的に振り返りを行ったことで自分の成長を感じ取ることができるようになった。

オ 全体の傾向

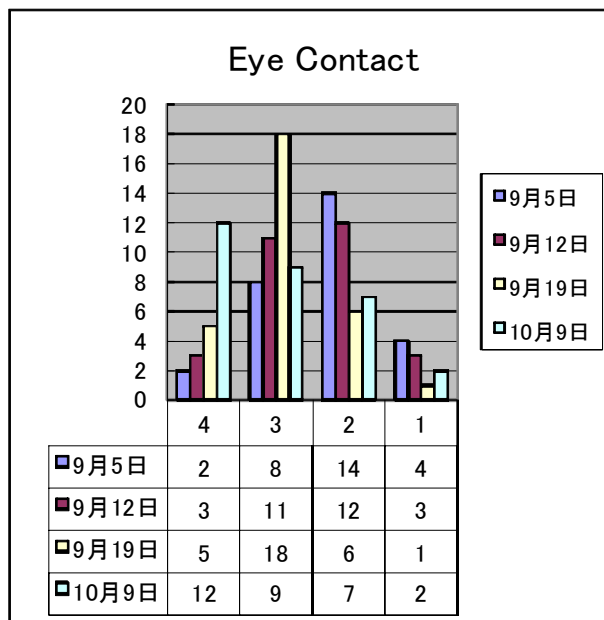
評価カードの集計(資料10~12)から、4(よくできた)【民間英語講師派遣会社の資料より抜粋】

の人数が増加し、2（あまりできなかった）、1（できなかった）の人数が減少している。また、（資料11）からは、3の（まあまあできた）の児童が4の（よくできた）に推移している様子も見られる。この集計結果からも、学級についてよく把握している学級担任がT1として授業を構成・展開することで、児童は安心して外国語活動に取り組むことができ、活動への意欲を高め、積極的に活動を行うことができるかと判断できる。

資料10 Big Voiceの集計



資料11 Eye Contactの集計

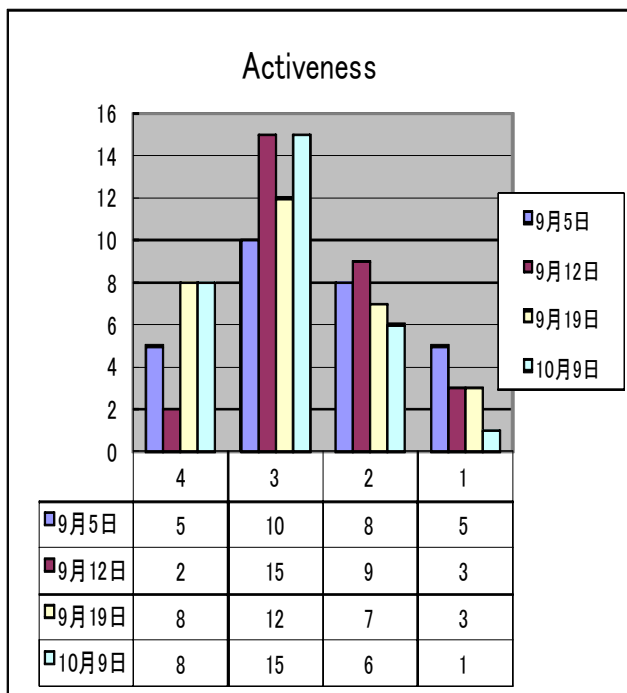


また、自己評価を継続的に行うことで、学級担任は児童の学習状況を把握でき、個々に応じた指導を展開することも可能になった。それによって、今まで外国語活動に消極的だった児童にも十分な支援を行えるようになったため、意欲をもって参加できるようになっている。児童自身も自分の活動を振り返ることで、次時への課題を確認し意欲を高められるようになってきている。

カ 抽出児の変容

A児は外国語活動の中でも、ペア活動やグループ活動に消極的な児童である。初めは授業内容を理解できず戸惑っていたが、評価カード（資料13）を踏まえて学級担任がA児に対してジェスチャーで言葉の理解を促したり、机間指導でA児に声掛けをし、一緒に学ぶように働きかけたりすることで、次第に活動に意欲をもつようになってきた。

資料12 Activenessの集計



B児は、学習内容を完璧に理解するまでは自分から積極的に活動することをためらう児童である。評価カード（資料14）を踏まえながら、B児に自信をもたせられるよう、授業中に“Good!”などの

肯定的な言葉を掛けたり、相手と向き合った時の表情に留意するように指導したりした結果、少しずつではあるが自信をもち始め、活動への意欲が高まってきた。

資料13 抽出児A児の自己評価カード

Let's speak English!

○授業をふり返って、次のアンケートに○をつけよう。

4 よくできた 3 まあまあできた 2 あまりできなかった 1 できなかった

Day	TOPIC	アンケート項目		
		Big Voice (相手に聞こえる大きな声)	Eye Contact (相手の目を見て会話)	Activeness (活動に積極的)
9/5	SNAKES&LADDERS	4・3・2・1	4・3・2・1	4・3・2・1
9/12	Around the school	4・3・2・1	4・3・2・1	4・3・2・1
9/19	Self-Introduction	4・3・2・1	4・3・2・1	4・3・2・1
10/9		4・3・2・1	4・3・2・1	4・3・2・1
		4・3・2・1	4・3・2・1	4・3・2・1

感想(わかったことや、できるようになったことを書こう。)
少しはじこしとかができるようになれてよかったです。

資料14 抽出児B児の自己評価カード

Let's speak English!

○授業をふり返って、次のアンケートに○をつけよう。

4 よくできた 3 まあまあできた 2 あまりできなかった 1 できなかった

Day	TOPIC	アンケート項目		
		Big Voice (相手に聞こえる大きな声)	Eye Contact (相手の目を見て会話)	Activeness (活動に積極的)
9/5	SNAKES&LADDERS	4・3・2・1	4・3・2・1	4・3・2・1
9/12	Around the school	4・3・2・1	4・3・2・1	4・3・2・1
9/19	Self-Introduction	4・3・2・1	4・3・2・1	4・3・2・1
10/9		4・3・2・1	4・3・2・1	4・3・2・1
		4・3・2・1	4・3・2・1	4・3・2・1

感想(わかったことや、できるようになったことを書こう。)
英語が少しはどきどきとしゃべることができた。

(3) 成果と課題

ア 成果

- ・学級の状況をよく把握している学級担任がT1として外国語活動の指導を行うことで、児童が安心して活動に取り組み、同時に学習意欲も高まってきたと感じる。今後も継続してT1としての取組を行っていくことが大切である。
- ・自己評価カードを継続して行うことで、児童は外国語活動における自分の成長を見て感じることができた。また、学級担任も児童の取組状況を把握でき、次時の指導に生かすことができた。

イ 課題

- ・AL Tとの打合せの時間がなく、細かな内容を協議するのが困難である。現在は町のカリキュラムに従って2, 3時間単位の授業予定をプリントでAL Tに提示することで、次時以降の連絡を取り合っている。より細かな指導をしていくためにも、打合せ方法を考えていく必要がある。

4 連携への取組

小中連携への取組を時系列でまとめると以下のようになる。なお、中学校の実践もその中に掲載してある。

月 日	衣浦小学校 (神谷)	富貴小学校 (氏家)	富貴中学校 (小林)
5. 30	<ul style="list-style-type: none"> ・総合教育センターで、小中連携の在り方・もち方について話し合う。 ・町英語研究会代表の石橋教頭(富貴中)へ連絡を取り、協力校3校の教務主任・担当者の会を開いてもらうことを願う。(小林) 		
5. 31			<ul style="list-style-type: none"> ・小学校の授業で評価を蓄積するための「評価シート(案)」を作成・衣小へ送付する。
6. 4	<ul style="list-style-type: none"> ・評価シート案について加筆・訂正を加える。 		
6. 7			<ul style="list-style-type: none"> ・加筆・訂正をしたものを再び衣小へ送り、次回の協議内容の1つにする。
6. 12	<ul style="list-style-type: none"> ・学校訪問で“What day is it ?”(5年)の授業を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・衣浦小の授業を参観する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・衣浦小の授業を参観し、感想を送る。
6. 27	<p>総合教育センターで、1か月の取組について話し合う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 英語の授業をすることについての教員の反応 <ul style="list-style-type: none"> ・外国語活動に抵抗のある先生も少なくない。 ・児童への声掛けも少なく児童・教員間、児童・児童間の会話も少ない。 2 クラスルーム・イングリッシュの使用頻度・程度と発音について <ul style="list-style-type: none"> ・学級担任が発音に不安をもっており、正しいか分からず戸惑っている。 ・基本的には日本語を話さないが、児童はよく理解している。 3 授業の教材・単元構成の作成 <ul style="list-style-type: none"> ・AL Tのデータをもらっておく事が大切である。フラッシュ・カードではなく、教室に設置されたテレビに携帯用画像再生機からの画像を見せながら、発音練習している。授業開始時には必ず前時の復習をして定着を図っている。 ・ラミネートされたフラッシュ・カードを使い、発音練習を行っている。 4 AL T, 指導員とのティーム・ティーチング <ul style="list-style-type: none"> ・3校ともAL Tが他校と掛け持ちをしており、打合せ時間がほとんどとれない。 ・富小ではAL Tが指導案をファックスで送ってきて、打合せ時間をとらずに授業をしている状態である。 ・富中も同様に、英語教員が指導案をAL Tにファックスで送っている。 5 児童・生徒の様子、表情 <ul style="list-style-type: none"> ・5年生は、英語の時間は大好きで意欲的である。 ・6年生も楽しみにしている。 6 その他 <ul style="list-style-type: none"> ・小学校用評価シートについて ↓ 日付や題「Topic」の記載をどうするか。 ・クラスルーム・イングリッシュの講座や講義・練習も必要か。 		



写真2 児童の様子

7. 4	<p>小学校では、まず協力員が率先して授業を行い、学級担任がT 1として主導権を握って、授業中の一つ一つの指示を出すように心掛ける。 中学校教員は、クラスルーム・イングリッシュの練習が小学校で必要であれば出向く。</p>		
	<ul style="list-style-type: none"> ・ビデオを見て研究する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ビデオを見て研究する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・浅井先生（1年英語担当）の授業を参観する。（ビデオ撮影） ・現職の研究授業と兼ねる。
	<p>＜山中先生（教育センター）からの指導＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テンポがあり、活気のある授業で50分があつという間に過ぎた。 ・全生徒が課題に向かって前向きに取り組んでいた。 ・指示の出し方、ポイントの確認、早くできた生徒への指示が的確だった。 ・クラスルーム・イングリッシュが行われていた。 クラスルーム・イングリッシュに関する掲示物を掲示しておくとう英語が苦手と思っている生徒にもよくわかり、つづりも定着するのではないか。 ←これは小学校でも同様に、児童だけでなく教員にもよく分かるのではないか。 また、発音を練習できるようなCD等を用意するとよいのではないか。 ・様々な手立てが講じてあり、工夫された活動で楽しみながら重要表現が身に付く活動だった。小学校の段階でコミュニケーション活動が積極的にできれば、中学校で書く活動の時間をもう少し確保できるのではないか。 ★中学校英語における書く活動について 繰り返し書く活動では、発音しながら書いてはどうか。書いたらすぐ確認する方法はないか。（間違えたつづりを何回も書くのはどうかと…） 		
7. 15	<ul style="list-style-type: none"> ・1年生にアンケートを実施し、回収する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1年生にアンケートを実施し、回収する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1年生にアンケートを実施し、回収する。
17	<p>＜アンケート結果からの分析（センターの先生からの質問と回答）＞</p> <p>Q 1 武豊地区では「英語が苦手という生徒が多い割りに、英語の授業が好きだ」と言う生徒が多いのはなぜか。</p> <p>A 1 中学校の該当英語教員の人としての「魅力・人間力」や授業力にかかわっているのではないかと思う。また、英語が難しくても、授業の中で自分から積極的にかかわることのできる活動があったり、自己実現できる場があるからではないかと思う。</p> <p>Q 2 富貴小5年2組の「英語がとても好き・まあまあ好き」を合わせると100%になるのはどこに秘けつがあるのか。</p> <p>A 2 学級担任はT 1として前面に出ているわけではないので、やはりALTの力が大きいと思う。学級担任ではなく、ALTの雰囲気等だと思う。</p>		
8. 5	<p>武豊町現職英語教育研究会（2小学校＋1中学校の代表者＋教務主任）</p> <p>＜研究協議内容・今後の課題＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今までに行った2つの授業（衣浦小・神谷先生：“What day is it ?”と富貴中 浅井先生：Unit 3 Part 3 コミュニケーション活動を用いた否定文の習得）は、この時点ではあまり記憶に残っておらず、メモをしてくださった方のご意見をまとめたに留まった。→ <u>やはりすぐ研究協議をしないといけない。</u> ・9月上旬に衣浦小・神谷先生によるALTとのTT（ビデオ撮影付）を行い、5時以降そのビデオを見ながら検討会議をもつ。 → 結局時間が取れず検討会議を開催できず。 ・2学期以降の学校訪問、学校公開日に限らず授業を見学・参観する場合は、授業者が「どの柱・どの観点」で見たいのかを明示し、参観者は感想等を批評箋や付箋紙に書いて渡すようにする。→ 3校の協力員で感想を送り合う。 ・中学校教員が小学校に出向いて、ALTとのTTを行ったり、小学校の学級担任とTTを行ったりする。→ まだ実現せず。 *比較的に時間が自由になる2学期期末＝11月下旬を予定している。 ・授業の足跡をたどるポートフォリオ型の評価については、時間ごとに1枚の紙を渡していくと児童への負担が大きいため、1月で1枚（4回の授業で、小項 		

目+大きな反省を1つ書く)のパターンを検討中である。 → 実施中		
8. 7	夏季知多英語研究会・知多市勤労文化会館 (衣浦小：神谷, 富貴中：小林 参加) 小学校部会, 中学校部会 (1・2・3年) ・23年度に向け, 様々な悩みや意見が聞けてとても参考になった。 ・小学校の抱えている問題点が明確になり他地域のことがよく分かった。 ・文部科学省の方針と現場の考え方との歩み寄りの必要性を感じる。 ・英語ノートについての意見が聞けたのがよかった。東海市のように一致団結して取り組みたい。 ・他市町村のカリキュラムも見てみたい。 ・英語ノート, 1～4年生の外国語活動の取扱いについて聞けてよかった。 ・新学習指導要領の対応の仕方について各学校の状況を知ることができた。	
8月 下旬	・児童用の自己評価カードを作成する。(トピックの理解度はなし)	・児童用の自己評価カードを作成する。(トピックの理解度付き)
5・6年理解度を省いた1月毎のバージョンで統一		
9. 11	・T1として, ALTとの研究授業を行う。	・授業を参観する。
・授業を参観する。		
<授業者の反省> (神谷) ・今回はT1として, 授業を展開できた。また, 最近では復習はT1が行うというのが通常になってきた。(教員の意識もALTに任せるという状態ではなくなってきた。自分で英語の授業を進めていると実感できている。) ・“How are you ? game”については, ALTと打合せをしたが, 実際にやったことがなかったので, スムーズにモデル対話が行えなかった。 ・“How are you ? I'm ~. の pointing game”では, 答えが“I'm hot.”など短い答えに集中してしまうため, 曜日や数字などの単語を活用すべきであった。新しい題材を考えると盛り上がってよいと思う。		
<参加者の感想> (小林) ・テンポのよい指示とクラス・オーダーがしっかりしていたのが好印象であった。 ・クラスルーム・イングリッシュも多用されていて練習の成果が見られ, 聞き取りやすい英語だった。		
9. 29	・ALTの入れ替えに伴い, 職員会で「英語授業の進め方」として, 学級担任がT1として授業ができるように, モデルケースを提示し, 共通理解を図る。 ・ポートフォリオ型の評価については, 全体の傾向と個人の傾向の分析を行う。	・衣浦小：神谷先生からの反省や提案を受け, メールで自分なりの考えを送る。 ☆カリキュラムについて, 気付く点をメールで返信する。(英語・文法上の誤り) ・回数を追った上での個人の変容を見るようお願いをする。
10. 7	・富貴中の学校訪問を参観する。 中1 Word Box 2 曜日 中2 Speaking Plus 2 電話	・学校訪問でTTの授業を公開する。 中1 Word Box 2 曜日 中2 Speaking Plus 2 電話
<授業を見ての感想・小学校のTTと中学校のTTの違い等> (神谷) ☆1年 浅井先生 Word Box 2 曜日 ・ALTの発音を聞きながら, 正しい単語を選ぶゲームを是非取り入れたい。 ・“Mr. ~”“Ms. ~”と呼び, “Yes”で返事をするのも参考になった。 ・本時の曜日の内容は, 小学5年生での既習事項であるため, 取り組みやすかつ		

	<p>たのかということに興味がある。← 既習事項でも覚えていない生徒が多い。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校では文全体で意味が分かればよいけれど、中学校では文の構造や単語の意味までわからなければいけない。大きな違いだと思う。 ・中学校で使用している「学びの手引」が参考になった。 <p>☆2年 小林 Speaking Plus 2 電話の会話</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テンポがよく授業中の雰囲気もよかった。挙手も多かった。 ・音読練習で順番に縦列の生徒が移動していく方法は、飽きずに練習できる。 ・口頭でのポイント説明より、板書しながらの説明の方がよかったのではないかな。 ・じゃんけんの方法が面白かった。 ・実際に電話を使うのはよい学習支援であったが、「切実感のある対話」には物足りなかったと思う。もう少し教員が役になり切る必要があったのではないかな。 		
10.14	<ul style="list-style-type: none"> ・富貴小の学校訪問を参観する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・“What's your favorite subject ?”“I like math.” の A L T との研究授業を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・富貴小の学校訪問を参観する。
	<p><授業者の反省> (氏家)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・T1として授業を展開することができた。スムーズに授業を行えた。 <p><参加者の感想> (神谷)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・T1としてよく機能していた。“Change, Carlos !”などの表現でクラス・オーダーがよくとれていた。学級担任の英語力に脱帽である。 ・個別指導は日本語で確実に行っているのはよいと思う。 ・“CrissCross”が面白かった。ただ、教科名の習熟に時間がほとんど費やされていたので、“What's your favorite subject ?”の習熟ができるように工夫するとよい。 ・授業のまとめの段階で writing が入っていたのは、中学校へのよいつなぎとなる。 ・評価カードを時間内に書かせたのがよかった。今後の評価の生かし方がかぎである。 <p><参加者の感想> (小林)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クラス・オーダーがよくできており、授業の流れがスムーズである。しかし、時に先生の意図どおりにいきすぎて、ゲーム性の薄れる場面もあったと思う。 ・クラスルーム・イングリッシュが多用されていて好印象である。通じにくい表現の時のフォローの仕方に工夫がほしい。 ・T Tとしての掛け合い、児童の前への出し方や引き方は絶妙だったと思う。 ・評価カードの記入方法については、欄に書けない児童がいるので、配慮が必要である。 ・T2 (T1も行う場合はあるかも?) のフラッシュ・カードの提示の仕方や、大文字、小文字の統一についての見解をはっきりさせたい。 ・ライティングシートのJの書き方やP. E.の「.」の扱いについて一考したい。 		
10.15	<ul style="list-style-type: none"> ・総合教育センターの研究を振り返って、成果と課題について話し合う。 <ol style="list-style-type: none"> 1 T1として授業を行うことで得たもの 2 ポートフォリオ的な評価をすることで得たもの 3 A L T との関係 4 中学校の英語授業を参観することで得たもの 5 小学校の英語活動を参観することで得たもの 6 1～5の課題と改善するための取組 7 今後の小中連携の在り方について 8 その他 		
	<ul style="list-style-type: none"> ・まとめレポートの作成 	<ul style="list-style-type: none"> ・まとめレポートの作成 	<ul style="list-style-type: none"> ・まとめレポートの作成

5 成果と課題

(1) 成果

ア 小学校の実践を通して

衣浦小学校ではALTの変更に伴い、「英語授業の進め方」(資料14)を全職員に提案し、学級担任の意識改革をしたことにより、ALTに任せきりになっていた英語の授業を学級担任が構成・展開するようになりつつある。また、英語の授業の進め方について学年間で情報交換したり、ALTとの打合せの時間を確保したりする姿が見られるようになった。

また、小学校外国語活動の様子を中学校の英語教員に参観してもらうことで、クラスルーム・イングリッシュや授業構成の在り方をアドバイスしてもらえるようになり、学級担任が中心となって授業を構成・展開しやすくなりつつある。

この連携を機会に、小学校間でも外国語活動の授業を参観し合い、情報交換することにより、授業改善のポイントが明確になってきた。

資料14 外国語活動の進め方

英語授業の進め方について

model case	HRT(T1)	ALT(T2)	児童
授業前	黒板に"good""hot""hungry" "great"など"How are you?" に対する答えを書いておく。		
あいさつ	"Good morning (afternoon)" "How are you?" "I'm good."	"Good morning (afternoon)" "How are you?" "I'm good."	日直が日本語で通常授業と同じあいさつ。 児童は立ったまま。 "Good morning (afatemoon)" I'm good. (黒板に書いてある表現) Thank you.And you? "Good morning (afatemoon)" "Good morning (afatemoon)" I'm good. (黒板に書いてある表現) Thank you.And you? "I'm good."
warm up	例：5人"How are you?" "I'm ~."会話をするように指示。		例：5人と会話する。
review	前時までの復習をする。 例：one-ten Sunday-Saturday "Do you like ~?"	児童と一緒に発音する。	教師の指示に従い発音する。
言語活動	例：「今日は、〇〇を学習します。ここからは、ペンとパトントタッチします。」	本時の学習内容を教える。	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> ※ALTが本時の学習内容を教えている間は、児童と一緒に活動したり、日本語で補足説明したり、学級の生徒指導をしたりする。 </div>			
game	gameの内容が分かって	HRTがゲームの説明をし	ゲームに参加する。

40 ま と め	いたらゲーム内容を説明する。(Next,lets game!というようにゲームの始まりと終わりを担任が仕切れるとよいと思います。) ※ALTと共にゲームのモデルを示す。 本時の学習内容をまとめる。 例：フラッシュカードで復習する。 本時で学習した英文を復唱する。 など ※武豊町の英語カリを授業に持参し、学習内容をメモに取りながら、まとめに生かしていくとよい。	ない時に、ゲームの説明をする。 ※HRTとともにゲームのモデルを示す。 教師の指示に従って発音する。
45 あ い さ つ	"That's all for today" (今日の授業はこれで終わりです。) "Good-bye. See you."	日直が通常のあいさつ

イ 中学校の実践を通して

小学校時に英語の発音に触れてきただけあって、「数字」や「曜日」の学習では難しい発音にも抵抗なく練習に取り組むことができた。また、ALTにも気軽に声を掛けられる生徒が多く、生徒間でALTの存在が日常化されていると感じた。

しかし、基本表現の定着から発展的に表現する場面では、語彙の少なさと決まり文句しか言えない会話力の乏しさから、自信をもてない生徒も多い。



写真3 中学校授業

今後は、生徒の心の中から湧き上がる「英語を使って話したい、伝えたい」と思える活動や場面設定をしていく必要がある。

(2) 課題と今後の取組

ア 児童生徒に関して

外国語活動の時間は児童にとってとても楽しいものであるが、進んで英語を活用しようとしたり、コミュニケーションをとったりという段階には、まだ至っていない。しかし、英語に多く触れ、ある程度の語彙をもっている児童が中学校に上がってきている現状は、「耳から慣れる」という点では非常に利点がある。

それにもかかわらず、中学校段階で生徒が英語につまづくのは、小学校での英語が「知識としての蓄え」ではないため、中学校に入学してから一気に文字を練習しなくてはならない「文字ショック」と共に、記憶として知識を蓄え、覚えていかななくてはならない「メモリーショック」を同時に味わう結果にもなっているからだと思われる。小学校でALTや学級担任と共に培った、英語を使ったコミュニケーション活動への意欲を持続させつつ、このショックを少しでも軽減できるような過程（音声と文字とを結び付ける効果的なフォニックスの在り方など）を、小学校6年後半又は中学校1年4月期に取り入れる必要がある。

イ 教員に関して

研究員の呼び掛けや「英語授業の進め方」の作成により、年度当初より積極的に授業にかかわり、学級担任の自分がT1であるという意識が多く教員に広がりつつある。しかし、まだまだクラスルーム・イングリッシュに不慣れで、コミュニケーション活動に入るとALTに任せてしまう面も見られる。

今後は、近隣の中学校の英語教員がALT役を買って出て、小学校の学級担任とTTを組んだり、研究授業の様子をビデオで見ながら、検討会をもつなどの工夫が必要と感じる。なかなか時間的なゆとりがなく、先延ばしになっている現状をできるだけ次年度に向けて打破していきたい。自主的な研修ではなく、全職員が現職研修の一環としてクラスルーム・イングリッシュの研修を受けられたり、研究内容を共有できるようにしたり、全校体制で取り組むようにしたい。

また、学級担任がT1をすることによる学級間の差や、ALTの違いによる学校間の差をなくするために、武豊町の共通カリキュラムのテキストに従って授業や活動を進めることも重要である。

ウ その他

メーリングリストを作って情報交換したり、授業のビデオを他校に回して見るなど、情報交換の場を設定することが研究を進めていく上で必要である。

武豊町小学校英語活動カリキュラム

1 5年生

No.	Title	Target Sentence
1	Greetings	What's your name? My name is Hanako. ①日常のあいさつを覚えて言う。 ②「あなたの名前は何かですか」の問いに答える。 また、自分の名前を文で言う。 ③アイコンタクトや握手の大切さを学ぶ。
2	Karuta	Stand up. Sit down. ①授業で使う英語を覚えて言う。
3	Age(a)	How old are you? I'm ten. ①1～10の数字を覚えて言う。 ②「あなたは何歳ですか」の問いに答える。
4	Colors(a)	What color is this? It's red. ①基本的な色の名前を覚えて言う。 ②「これは何色ですか」の問いに答える。 ③「あなたの名前は何かですか」と尋ねる。
5	Wild Animals	What's this? It's a giraffe. ①野生動物の名前を覚えて言う。 ②「これは何ですか」の問いに答える。 ③「これは何色ですか」と尋ねる。
6	Colors(b)	What color is this? It's red. ①基本的な色の名前を覚えて言う。 ②「これは何色ですか」の問いに答える。 ③「あなたは何歳ですか」と尋ねる。
7	Days of the Week	What day is it? It's Monday. ①曜日の名前を覚えて言う。 ②「何曜日ですか」の問いに答える。 ③「これは何ですか」と答える。 ④「これは熊です」と文で言う。
8	Weather(a)	How's the weather? It's rainy. ①天気を表す言葉を覚えて言う。 ②「どんな天気ですか」の問いに答える。
9	Fruit(1)	A banana./An apple. What's this? It's an apple. ①フルーツの名前を覚えて言う。 ②色や数字の形容詞的用法(a yellow banana, two oranges)を覚える。 ③「これは何ですか」と尋ねる。また、「それはリンゴです」と文を用いて言う。
10	Fruit(2)	Do you like ~? Yes, I do./No, I don't. ①果物の名前を覚えて言う。 ②「あなたは～が好きですか」と問いに答える。
11	School Lunch	Do you have ~? Yes, I do./No, I don't. ①給食の食べ物や食器の名前を覚えて言う。 ②「～はありますか」「私には～がありません」と英語で話す。
12	Vegetables	Do you like onions? Yes./No. I don't like onions. ①野菜を表す語句を覚えて話す。 ②「～は好きですか」の問いに"Yes, I do./No, I don't."で答える。
13	Feelings(1)	How are you? I'm hot. ①基本的なあいさつを覚えて言う。 ②気持ちを表す語を覚えて言う。
14	Feelings(2)	How are you? I'm sick. ①気持ちを表す語句を覚えて話す。 ②「ごきげんいかがですか？」の問いに答える。
15	Review Activities	既習の文 ①既習の語句や文をゲームで総復習する。 ②「キャベツは好きではない」(I don't like cabbage.)と文で言う。

16	Months(1)	When is your birthday? ①月の名前を覚えて言う。
17	Months(2)	What month is it? It's February. ①月の名前を覚えて言う。
18	Sports(a)	Can you play baseball? Yes,I can./No, I can't. ①スポーツの名前を覚えて言う。 ②「あなたは野球ができますか」の問いに答える。 ③天気を文で言う。(It's rainy.)
19	Sports(2a)	What sports can you play? I can play・・・ ①スポーツを表す語句を覚えて言う。 ②「どんなスポーツができますか」の問いに答える。
20	Wild Animals(a)	How do you say <i>kirin</i> in English? Giraffe. ①野生動物の名前を覚えて言う ②「キリンは英語でどう言いますか」の問いに答える。
21	Wild Animals(b)	How do you say <i>same</i> in English? Shark. ①野生動物の名前を覚えて言う。 ②「サメは英語でどう言いますか」の問いに答える。 ③「ラグビーができます」(I can play rugby.)と文を用いて言う。 ④ジャンケンをして英語で対話する。
22	Kid's stuff	I have a ～. ①子供の持ち物の名前を覚えて言う。 ②「～を持っていますか」の問いに"Yes, I do./No, I don't."と答える。 ③「ワニは英語でどう言うか」(How do you say <i>wani</i> in English?)と答える。 ④持ち物について対話する。
23	Pets	Do you have a pet? Yes, I do. I have a ～./No, I don't. ①ペットの名前を覚えて言う。 ②「ペットを飼っていますか」と尋ねる。 ③「私はバットを持っています(持っていません)」 (I (don't) have a bat.)
24	Kid's food	What food do you like? I like ～. ①子供の好きな食べ物の名前を覚えて言う。 ②「どんな食べ物が好きですか」の問いに答える。
25	Body Parts(1)	Touch your head. ①基本的な身体の部分の名前を覚えて言う。 ②「頭に触りなさい」の文を理解して、動作で示す。
26	Body Parts(2)	What's wrong? My leg hurts. ①基本的な身体の部分の名前を覚えて言う。 ②「身体の具合はどうですか」の問いに答える。 ③「どんな食べ物が好きですか」(What food do you like?)と尋ねる。
27	Review2 10-20	既習の文 ①既習の語句や文を総復習する。
28	Board Game.	既習の文 ①既習の語句や文を総復習する。 ②単語の発音練習をする。 ③「ごきげんいかがですか」の問いに答える。
29	Christmas Card	Merry Christmas. Happy new year. ①外国の年賀状について知る。 ②クリスマスと新年のあいさつをする。 ③年賀状のあいさつ文を読む。
31 ～ 35	Review 1～5	1年間のまとめをする。

No.	Title	Target Sentence
1	First Lesson Preview	Nice to see you again. ①いろいろなあいさつを言ったり答えたりする。 ②「また会えてうれしい」とあいさつする。 ③あいさつの大切さを学ぶ。
2	Classroom English	Stand up. Sit down. ①英語で指示されたことを理解し、指示されたように行動する。
3	TV Characters	Do you know Doraemon? Yes, I do./No, I don't. ①「ドラえもんを知っていますか」の問いに答える。
4	Time(a)	What time is it? It's eleven. ①11, 12の数字を覚えて言う。 ②「今何時ですか」の問いに答える。 ③1時～12時の時刻の言い方を覚えて言う。
5	Time(b)	What time is it? It's eleven thirty. ①1～60の数字を覚えて言う。 ②「今何時ですか」の問いに答える。 ③「サザエさんを知っていますか」(Do you know Sazae-san?)と尋ねる。
6	Cities	Where do you live? I live in New York. ①有名な都市の名前を覚えて言う。 ②「あなたはどこに住んでいますか」の問いに答える。
7	Around the school(a)	Is this the gym? Yes, it is./No, it isn't.(No, it's not.) ①学校にある部屋の名称などを覚えて言う。
8	Around the school(b)	②「これは体育館ですか」の問いに答える。 ③「どこに住んでいるか」(Where do you live?)と尋ねる。
9	Personal profile(a)	My name is __. I am __ years old. I live in __. I like this. ①いろいろなあいさつをする。 ②好きな色、食べ物、スポーツを言う。 ③Profileを紹介する。
10	Personal profile(b)	My name is __. I watch __. I eat __. I can play __. ①いろいろなあいさつをする。 ②好きな色、食べ物、スポーツ、テレビ番組を言う。 ③Profileを紹介する。 ④Profileを書く。
11	School Subjects(a)	What's your favorite subject? I like math. ①教科の名前を覚えて言う。
12	School Subjects(b)	②「好きな教科は何ですか」の問いに、「算数です」と答える。
13	After school(a)	What do you do after school? I watch TV. ①生活を表す語句を覚えて言う。
14	After school(b)	②「授業後に何をしますか」の問いに答える。 ③「あなたの好きな教科は何ですか」(What's your favorite subject?)と尋ねる。
15	Sports(3)c	Let's go skiing. ①play～と～ingの区別をつけられるようにする。 ②主なスポーツを表す語句を覚えて言う。 ③「スキーに出掛けよう」の文を言う。
16	Sports(3)d	Let's go swimming. OK, let's go./No, thank you. ①主なスポーツを表す語句を覚えて言う。 ②「スキーに出掛けよう」の文を言う。 ③「スキーに出掛けよう」の誘いに答える。
17	Countries(a)	Where are you from? I'm from Australia.
18	Countries(b)	①主な国名を覚えて言う。
19	Family(a)	This is my father. This is my mother. ①父母、祖父母、兄弟姉妹の言い方を知る。 ②「この人はお父さんです」「あの人はお母さんです」の文を言う。

20	Family(b)	Introduction, Family words. ①家族の構成員を表す語句を覚えて言う。 ②「これは私の母です」とか「妹の名前は...です」と紹介する。 ③「妹はテニスが好きです」(My little sister likes tennis.)と文を用いて言う。 ④家族を紹介する。
21	Snakes and ladders	All of the sentences on the game. ①既習の語句や文を総復習する。 ②基本の質問文や答え方を復習する。 ③「～に行こう」(Let's go ~ ing.)と文を用いて言う。 ④いろいろな対話をする。
22	Nengajo New Year's Card	Merry Christmas. Happy new year. ①外国の年賀状について知る。 ②クリスマスと新年のあいさつをする。 ③年賀状のあいさつ文を読む。 ④イラストや飾りを入れて楽しい年賀状を作る。
23	Karuta	Review ①既習の語句の総復習をする。 ②「魚釣りに行こう」(Let's go fishing.)と文を用いて言う。
24	Daily activities	What time do you get up? At six. ①生活を表す語句を覚えて言う。 ②「何時に起床しますか」の問いに答える。
25	I'm doing	What are you doing? I'm studying. ①動作を表す動詞の進行形を覚えて言う。 ②「今何をしていますか」の問いに答える。
26	School Timetable	Which do you like better, P.E. or science? I like P.E. better. ①教科や主な活動を表す語句を覚える。 ②「体育と理科ではどちらが好きですか」の問いに答える。
27	Rooms in the house	Where is the piano? It's in the living room. ①部屋の名前を覚えて言う。 ②「ピアノはどこにありますか」の問いに答える。
28	Household things	What's in the...? A/an ... ①「.....の中に何がありますか」を言う。 ②「.....の中に何がありますか」の問いに答える。
29	Kid's Food/Drink	May I help you? A pizza, please. ①飲み物の名前を覚えて言う。 ②「ご用ですか」とか「何か飲み物はどうですか」の文を覚えて言う。
30	Review Karuta	Review ①既習の単語や文の復習をする。 ②楽しくカルタ取りをする。
31 ~ 35	Review 1 ~ 5	1年間のまとめをする。

Let's speak English!


 年 組 番

☆授業をふりかえって、アンケートに丸をつけよう！

4 よくできた 3 まあまあできた 2 あまりできなかった 1 できなかった

Day	Topic	Big Voice (相手に聞こえる大きさ な声)	Eye Contact (相手の目を見て会話)	Activeness (活動に積極的)
/	Feelings(2)	4・3・2・1	4・3・2・1	4・3・2・1
/	Review activities	4・3・2・1	4・3・2・1	4・3・2・1
/	Mothers(1)	4・3・2・1	4・3・2・1	4・3・2・1
/	Mothers(2)	4・3・2・1	4・3・2・1	4・3・2・1

感想 (分かったことや、できるようになったことを書こう)